

第 5 ・ 6 学 年 国 語 科

1 学年の目標

- (1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。
- (3) 言葉がもつよさに認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 内容

知 識 及 び 技 能	<p>(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項</p> <p>ア 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。</p> <p>イ 話し言葉と書き言葉の違いに気付くこと。</p> <p>ウ 文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。</p> <p>エ 学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p> <p>オ 思考に関わる語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。</p> <p>カ 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。</p> <p>キ 日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。</p> <p>ク 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。</p> <p>ケ 文章を音読したり朗読したりすること。</p>
	<p>(2) 情報の扱い方</p> <p>ア 原因と結果など情報と情報の関係について理解すること。</p> <p>イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。</p>
	<p>(3) 我が国の言語文化に関する事項</p> <p>ア 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。</p> <p>イ 古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。</p> <p>ウ 語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言の違いを理解すること。また、仮名の及び漢字の由来、特質などについて理解すること。</p> <p>エ 日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに関与することに気付くこと。</p>
A 話 す ・ 聞 く	<p>ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。</p> <p>イ 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。</p> <p>ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。</p> <p>エ 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考え</p>

思考力、判断力、表現力等		と比較しながら、自分の考えをまとめること。 オ 互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。
	B 書くこと	ア 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 オ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 カ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。
	C 読むこと	ア 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に捉え、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。 エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

3 内容の取り扱い

(1) 知識及び技能

① 言葉の特徴や使い方に関する事項

- 挨拶などの日常会話において見られるように、言葉には話し手と聞き手(送り手と受け手)の間に好ましい関係を築いて継続させる働きがあることに気付かせる。
- 話し言葉と書き言葉の特色や役割の違いに気付かせ、それぞれの特質に配慮した使い分けができるようにする。
- 「漢字仮名交じり文」という日本語の表記の仕方を踏まえ、文や文章の読みやすさと意味の通りやすさを考えて、漢字と仮名を適切に使い分けできるようにする。また、正しい仮名遣いで表記できるようにする。
- 多くの文章を繰り返し読んで優れた表現に触れたり、自分の表現に生かしたりして、語感や言葉の使い方に関する感覚を養うようにする。
- 主語と述語の関係に着目して文を単文・重文・複文に分けること、「序論ー本論ー結論」などの話や文章の組立てや説明などにおける論の進め方、話や文章の種類(紹介、提案、推薦、案内等)とその特徴、それらを理解させる。
- 日常生活の中で、相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに慣れさせる。
- 多様な文章に表れる様々な表現の工夫(比喩や反復、倒置など)に気付かせる。
- 自分の思いや考えが伝わるように音読(声の大きさや抑揚、速さや間の取り方を生かして読む)や、朗読(思ったことや感じたことを聞き手に伝えようと、表現性を高めて文章を声に出して読む)をさせる。

② 情報の扱い方に関する事項

- 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する「知識及び技能」の育成に向けて、今回の改定で新設された事項である。
- どのような原因によって起きたのか把握したり明らかにしたりするなど、様々な情報の中から原因と結果の関係を見いだし、結び付けて捉えることができるようにする。

- 情報と情報との関係付けの仕方とは、複雑な事柄などを分解して捉えたり、多様な内容や別々の要素などをまとめたり、類似する点を基にして他のことを類推したり、一定のきまりを基に順序立てて系統化したりするなどを身に付けさせる。
- 図示などにより語句と語句の関係を表すことを通して、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりできることを理解させる。

③ 我が国の言語文化に関する事項

- 古文や漢文、近代以降の文語調の文章とは、言葉のリズムを実感しながら読めるもの、音読によって内容の大体を知ることができるようなもの、唱歌や文語調の校歌、各地域に縁のある作品など、児童にとって親しみやすいものとし、音読の楽しさを実感させる。
- 古典を解説した文章を読むことで、昔の人々の生活や文化などの背景を理解しやすくし、古典への興味・関心を深めさせる。能、狂言、人形浄瑠璃、歌舞伎、落語などを鑑賞させたり、年中行事や地域に伝わる祭事などを調べたりすることも考えられる。
- 伝統的な言語文化に触れることによって、時間の経過による言葉の変化に気付き、自分たちの言葉への関心を深めるとともに、言語文化としての古典に親しみ、受け継いでいく態度を養う。また、世代や年齢、地方・地域による言葉の違いを知り、場に応じた適切な言葉遣いができるよう指導する。
- 日常生活の中で読書の楽しさや有効性を実感しながら、主体的・継続的に読書を行い、読書によって多様な視点から物事が考えられるということに気付くようにする。

(2) 思考力、判断力、表現力等

① A 話すこと・聞くこと

- 話す目的や意図、聞き手の求めていることに応じて話す材料を集め、内容ごとにまとめたり、それらを互いに結び付けて関係を明確にしたりさせる。
- 話す内容を構成する際は、自分の立場や結論などが明確になるように、事実と感想、意見とを区別したり、詳しい説明を付け加えたりするよう指導する。
- 分かりやすく伝えるために、必要な文言や数値等を引用したり、実物や画像、映像などを用いたり、図解したものや重要語句の定義付けを明示したりするなどの工夫をさせる。
- 話を聞くときには、話の目的や意図、伝えたいこと、共に考えたいことなど、相手の話の内容を十分聞き取らせる。また、話し手の考えと自分の考えとを比較し、共通点や相違点、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして自分の考えをまとめることができるよう指導する。
- 話し合いでは、互いの立場や意図を明確に示し、事前に内容や順序、時間配分、目的や方向性を検討し計画的に進めさせる。また、話し合いを通して様々な視点から検討し、自分の考えを広げたり、互いの意見の共通点や相違点、利点や問題点等をまとめたりさせる。
- 「話すこと・聞くこと」の指導内容は、次のような言語活動を通して指導する。

- ア 意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。
- イ インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。
- ウ それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。

② B 書くこと

- 家庭や地域、学校生活で感じたり考えたりしたことの中から、選択して書くことを決めさせる。また、集めた材料を書く目的や意図に応じて内容ごとにまとめたり、それらを互いに結び付けて関係を明確にしたりさせる。
- 目的や意図に応じて、構成の型を効果的に用いて、自分の考え及び読み手の理解が明確になるように文章を構成させる。
- 事実と自分の感想、意見などを区別して書くことを重視させ、その目的や意図に応じて、詳しく書かせたり、簡単に書かせたりして、それぞれの記述の仕方を工夫させる。
- 「引用」については、原文に正確に行うこと、引用した部分と自分の考えとの関係などを

明確にすることを指導する。

- 推敲の観点として、文章全体を見たときに内容や表現に一貫性があるか、目的や意図に照らして適切な構成や記述になっているか、事実と感想、意見とが区別して書かれているか、引用の仕方、図表やグラフの用い方は適切かを指導する。
- 互いの書いた文章を読み合い、目的や意図に応じた文章の構成や展開になっているかなどについて、具体的に感想や意見を述べ合い、自分の文章のよいところを見付けることができるようにする。
- 「書くこと」の指導内容は、次のような言語活動を通して指導する。

ア 事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。
イ 短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。
ウ 事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。

③ C 読むこと

- 説明的な文章の読み取りでは、要旨(書き手が文章で取り上げている内容の中心となる事柄や、書き手の考えの中心となる事柄)を把握するために、全体を通して文章がどのように構成されているのかを正確に捉えさせる。その際、事実と感想、意見などとの関係を押さえるようにする。また、書き手は自分の考えをより適切に伝えるために、どのように論を進めているのか、どのような理由や事例を用いることで説得力を高めようとしているのかなどについて考えをもたせる。
- 文学的な文章の読み取りでは、直接的に描写されている登場人物の心情だけでなく、人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されている描写にも着目しながら読み進める。また、登場人物や場面設定、個々の叙述などを基に、その世界や人物像を豊かに想像して物語の全体像を捉えるとともに、優れた叙述、暗示性の高い表現、メッセージや題材を強く意識させる表現などに着目して読むように指導する。
- 文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりしたことを基に、既知の知識や理解した内容と結び付けて自分の考えを形成させる。また、その考えを共有し、互いの意見や感想の違いを明らかにしたり、互いの意見や感想のよさを認め合ったりさせる。
- 「読むこと」の指導内容は、次のような言語活動を通して指導する。

ア 説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを話し合ったり文章に述べたりする活動。
イ 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。
ウ 学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。

4 評価の観点の趣旨

観 点	観 点 の 趣 旨
知識・技能	日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたりしながら、言葉がもつよさを認識しようとしているとともに、進んで読書をし、言葉をよりよく使おうとしている。